



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

雀鳥言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

4月の行事予定

4月		学年始休業日
日	月	
1	月	
2	火	
3	水	
4	木	第1回職員会議 各会議
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	新任式 前期始業式 中掃除 復習考査(2・3年) 写真撮影(2・3年)
9	火	第67回入学式 写真撮影(職員)
10	水	対面式 1年刈エンターション(1) 新入生テスト 復習考査(2・3年)
11	木	1年刈エンターション(2) 第2回職員会議 学校安全の日 結核検診(1年・職員)
12	金	1年刈エンターション(3) 部顧問会 午後5分短縮
13	土	
14	日	
15	月	全校朝会 1年刈(4)・写真撮影 部活動紹介 心臓検診(1年・職員) 体育保健合同委員会
16	火	健康診断(3年)
17	水	健康診断(1年)
18	木	健康診断(2年) 尿検査(1次)
19	金	創立記念日(記念式典・講演) 職員研修(心肺蘇生) 一中同窓会総会 尿検査(1次)
20	土	
21	日	
22	月	学年朝会 甲鶴戦合同LHR 体育保健合同委員会
23	火	身体測定
24	水	いじめ問題を考えるLHR(特設)
25	木	甲南鶴丸スポーツ交歓会
26	金	一日遠足
27	土	
28	日	
29	月	昭和の日
30	火	



構咲く学風ここに酔乎たり (中庭句碑)

自然体で高みを目指す
3学年主任 木下 一浩

生徒館の4階、例えば34R辺りの教室の窓から中庭に目をやると、樗の木(センダン)を見おろすことが出来る。今は葉を落として寒々としたたたずまいだが、夏の季節には四方に広がった枝に濃緑の葉が生い茂り、実に堂々としている。物理の早朝指導や演習では、初めにプリントを配布したら生徒諸君が解答するまでの間、教室後方の窓辺に立ち、樗の木を眺めるのがいくつか習慣のようになっていた。

確か夏の悠学講座期間中、一見無秩序に生い茂る樗の木の葉が木の天辺から底まできれいに見通せることに気が付いた。もちろん角度によつては微妙に枝葉どうしの重なりはあるものの、これは言うまでも無く太陽光線が樹木全体で最も効率良く受け止めるための造形なのである。

自然体という言葉がある。「自然体」があるがままの自分」と考えがちだが、元々は武道などで、余計な力や雑念が完全に消えたときの柔らかな構えを指すようだ。その境地に達するまでには、過酷且つ長期間にわたる修練

が必要に違いない。その道の達人が見れば、対戦相手に対峙したときの構えだけで、勝負の行方が予測できる場合もあるだろう。自然という言葉でこじつければ、自然界の生物が、進化の過程で過酷な環境に対応するために必要な形質を獲得し、不要なそれをそぎ落としてきたのと同じである。

第六四期生がこの3月、帰らざる三年(みとせ)にピリオドを打った。本校生であれば、ほとんどの諸君が高校生活の最後に大学受験という大きな試練に挑戦する。受験当日に至るまで三〇〇人いれば三〇〇通りのストーリーがそこにはあり、高みを目指した結果は勿論人それぞれだ。ただ、試験会場の中で、卒業生の諸君全員が試験問題と対峙したその時、彼らはみな本当の意味での自然体でいられたのだろうか。そうでない生徒がいたとすれば、その境地まで彼らが高めるために、私には出来ることか。三学年主任として今そんな事を思っている。

今年、体育館改修のため、三年次の追い込み、放課後の文化館自習ができません、やむなく各教室での放課後自習という形をとった。7限目が終わる、ほっとした雰囲気の中で教室でそのまま2時間の自習に突入するという、切り替えの難しい条件であった。教室内一切無音という取り決めに、当初は戸惑いもあったが、日にならぬ緊張感が生み出され、ピリピリとした緊張感が生み出され、再び文化館でおこなわれるであろう放課後自習に新三年生諸君は是非参加してもらいたいと思う。級友の頑張る姿に触発され、切磋琢磨しあう一体感と共に、物音一つ立てず2時間を過ごす不自由さ、孤独感も味わってほしいからだ。センター会場、2次試験の会場の雰囲気はい

ろいろな意味で快適さの対極にある。例えば隣席の見知らぬ受験生の鉛筆の音、貧乏揺すり、等々にペースを乱され、思うように実力を発揮できない可能性だってある。勝つためには敢えて不自由な環境の中で自分と向き合い、自分の心の声を聞き、解答を導く「修行」が不可欠である。当然、一、二年次における自宅学習においても全く同じである。

さて、最近ある物理学者のエッセイに「低度の独創性は危険である」という言葉があり、非常に考えさせられた。物理のみならず、科学研究において独創性は大切である。ただ、まだ誰も手を付けていない分野を血眼になって探し出し、「私が世界で初めて見つけました」と言われても、まずそこには発展性がない。というより発展性がないからこそ誰も手を付けないのであり、もつと云えば、それは「誰でも出来ること」なのである。そこに限られた労力や予算を使うのは科学界全体にとってマイナスでしかないという趣旨のものだ。実際ノーベル賞に輝いた山中教授のiPS細胞にしても、各国の熾烈な争いの中で生まれ、これからは競争の中で実用化されることが期待されている。

第六四期生諸君も、さらなる高みを目指してそれぞれの道を歩んでいくことになる。鶴丸生にとつての「高み」とは結局何なのか。このエッセイの内容に一つの答えがあるような気がしてならない。この学校に赴任してからはあまり聞いたことはないが、例えば、適当な学習でも入れてしまおう大学を選んでしまふのか、あるいは高レベルの競争に競争が続き、自分のやりたいことに限らず、模索できるような厳しい環境に身を置くのか、という事である。



答辞(上) 送辞(下)を述べる様子

若鶴たちよ 羽ばたけ!
第64回卒業式

3月1日(金)、卒業生たちは卒業証書を授与され、学舎を巣立っていった。式辞の中で校長先生は「君たちは、新たな創造の先頭に立つ覚悟が求められる」と激励。校歌作詞者・中馬幸子先生の言葉を紹介し、「この三年間は『かへらざる日』『かへらざる時』。人生は不可逆であることを一生、考えてもらいたい」と卒業生にメッセージを贈った。

また、在校生を代表して、米澤浩希さんが「これからの鶴丸、任せてください。どうか安心して自分の道に進んでください。」と力強く述べたのに対し、卒業生代表・山口舞さんは、三年間の高校生活を「広い視野で物事をとらえ、あらゆる面から考察して道を切り拓こうとする姿勢を、学んだ」と総括。「社会を担う一員として、

の福音となるだろう。その時の山中教授の科学者として、いや人としての喜び・達成感はいかほどだろう。だから、私はノーベル賞は別にしても(諸君が取れば、それは素晴らしいが)様々な分野で高度な独創性を発揮し、それによって世の中に貢献してほしいと願っている。そのため「高み」であり、そのための「鶴丸」ではないか。

さて、4月から新年度が始まる。巣立っていた第六四期生諸君。新二年、三年の諸君。そして新入生諸君には「自然体で高みを目指す」努力を決して惜しまないでもらいたいと切に願っている。

平成25年度定期人事異動

3月21日(木)に教職員定期人事異動が発表されました。本校を今年、転退職する教職員は次の通りです。

山之内伸明(教頭) 大口高校校長
和田倫周 (国語) 鹿屋高校
中村聡子 (国語) 加治木高校
山下明子 (国語) 退職
蔵屋貴仁 (数学) 枕崎高校
大窪賢一 (理科) 大口高校
久保公人 (理科) 高校教育課指導主事
渡邊健治 (保健) 退職
柏木利絵 (養護) 川内高校
丸山洋美 (実習助手) 伊集院高校
有村光代 (事務) 種子島高校事務次長
武田洋明 (事務) 南薩教育事務所主事

熱き戦いに向けて たいま甲鶴戦準備進行中

3月15日(金)、両校の甲鶴戦に出場する競技の部長会が行われた。今回二度目となった会合では、主にルール変更の内容と選手名簿の確認をした。

今春の甲鶴戦は4月25日(木)に実施される。例年と大きく異なるのは、ラグビー・サッカーが鴨池運動公園ではなく、南方の緑地公園で開催されること。それに伴い、試合時間やルールが改定されている。それ以外にも、従来とは異なる点が多いので、新年度に配布されるパンフレット等を精読の上、熱戦を見逃すことが無いようをお願いしたい。

本番を迎えるには、まだ課題が残されているが、実行委員会一同、残された時間の中で、最高の甲鶴戦にしようとする準備を進めている。当日は、生徒全員が一丸となつて、感動的な大会にしていきましよう。

(生徒会副会長 28R重野泰和)



話し合いにも静かな熱気が漂う